

ふるさと歴史散歩

〔第58回〕 道隆寺①

府中町の北部、水分峽の入り口付近のみくまり三丁目に道隆寺という大変古く由緒あるお寺がある。由来について『芸州府中荘誌』（菅原 守編 昭和7年に発刊）によれば、大同元年（806年）に弘法大師（空海）が唐から帰った直後に開基した真言宗の寺院で、府白山無量寿院薬王寺と号したという。

本尊の薬師如来と日光月光の両脇菩薩は大師作のもので、また十二神像は厩戸皇子（聖徳太子）の作と伝えられる仏像を安置し、国家鎮護と五穀豊穡祈願のため建立したとある。道隆寺に伝わる古絵図には山の中腹部に山門と壁をめぐらせて数棟の堂宇が建つ寺院敷が描かれている。

現在、呉婆々宇山の中腹のあたりに伝寺院敷といわれる場所がある。この場所には石状遺構があり寺院敷跡とも道隆寺の前身である薬王寺跡であるともいわれている。

薬王寺は信仰者が多く、仏事も盛んに行われていたが、

開基してから130年後に火災にあい、一日で灰燼に帰したという。その後、長徳元年（995年）に関白藤原道隆が現在の地に3年の歳月を要して七堂伽藍十二の末寺を建立し、寺領として千余石を寄付された。寺号も府白山無量寿院薬王寺から桑多山安芸院道隆寺と改められ、安芸一国の総祈願所と定めた。（道隆寺の再建に関しては伊勢女物語がある。）

しかし、天文10年（1541年）に出雲の尼子晴久に味方した出張城主白井房胤が大内義隆・毛利元就軍に攻められ、房胤の本陣となった道隆寺も周辺の十二の末寺も兵火のために灰燼に帰したか衰退し廃寺となったという。その後、広島城主となった毛利輝元が堂塔を再建した。

昭和5年5月に広島県立工業高校の河田義郎氏が道隆寺で発掘を試み、炭や古瓦の堆積層を見ている。その後、昭和52年には道隆寺の南側の畑から天平時代の瓦当（軒先瓦

先端部の円形の部分に文様がある瓦）の出土が見られた（写真①②）。このことから、この地には相当古い寺院があったと推測できる。



写真①②
道隆寺廃寺址出土の軒丸瓦
（府中町歴史民俗資料館に展示）

府中町文化財保護審議会会長
横田 禎昭



正しいごみ出しにご協力を

府中町清掃事務所 ☎ 286-3266



ごみの特別収集

午前8時30分 までにごみステーションに出してください。

9/15 (月・祝)	北部	普通ごみ（月・木曜日地区）
	南部	有価物（月曜日地区） 新聞・雑誌・ダンボール・布類・ビン・缶・金属類 大型ごみ（桃山2丁目・青崎中地区）
9/23 (火・祝)	北部	ペットボトル・白色トレイ・紙パック （第4回目火曜日地区）
	南部	普通ごみ（火・金曜日地区）

- 夏はごみが水分を多く含む時期ですので、普通ごみ（生ごみ）は十分に水気を切って出してください。
- ごみを出す日の前日および当日の午前8時30分以降のごみ出しは絶対におやめください。（カラス等により、生ごみが悪臭の元になっています。）

ペットボトル・白色トレイの再生のためにご協力を！

◆ペットボトル

- ①中をよく洗う
- ②キャップを外す
- ③ラベルをはがす
（キャップ・ラベルは普通ごみ）



◆白色トレイ

- ①中をよく洗う
- ②乾かすまたは拭く



※白色トレイとは

表裏とも白一色のもの（色物・柄物は普通ごみ）で、つまようじが簡単に刺さるもの。（発砲スチロール製）